

新型 iX3 で V2H/V2L 機能を使用する場合にご注意いただきたい点

(下記の注釈は*11 に記載の接続性確認済 V2H/V2L 機器と 2026 年 7 月時点での新型 iX3 を使用した場合のもので)

*1: CHAdeMO 給電口を利用した V2H/V2L 機能(以降 V2H/V2L 機能)を使用する場合、新型 iX3 に適合した機器の使用、設置が必要となります。また、必ず車両および V2H/V2L 機器の取り扱い方法に従ってください。間違った操作を行うと、車両または V2H/V2L 機器を破損するおそれがあります。

*2: 新型 iX3 の V2H/V2L 機能は、太陽光発電との連携における曇天時や薄暮時などの過剰な充電/給電の切り替えによる車両部品の劣化を防ぐため、1 か月の間に 45 回を超えて、V2H/V2L の利用を開始したり、V2H を利用中に一度自動停止したあと自動再開したり、急速充電を利用した場合には、商用電源からの電源供給が停止した場合にのみ給電が可能な‘利用制限状態’に切り替わります。上記の 45 回の上限に近づくと車両および“My BMW アプリ”(利用している場合)に V2H/V2L 機能の使用を控えることを推奨するメッセージが表示されます。V2H 機器の双方向充電では曇天時や薄暮時などは気づかない間に 1 日に 10 回以上自動停止・再開することは珍しくありません。‘利用制限状態’に切り替わった場合、商用電源からの電力の供給が継続している状況での V2H 機能の利用が再開可能になるには翌月までお待ちいただく必要があります。なお、各月の余剰分は、600 回を上限として積算され、翌月以降に使用可能となります。

*3: *2 に記載の‘利用制限状態’は車両の品質に影響を及ぼす可能性がある過度な V2H/V2L 機能の使用を制限しつつ、災害等による停電時等、商用電源(電力系統)が機能停止した場合に電気自動車から住宅等に電力の供給を行うためのものです。また、特定のニチコン社製パワー・コンディショナとニチコン社製の EV パワー・ステーションを設置し連携動作をさせている場合、太陽光発電や蓄電池から住宅等への電力の供給が少しでもある場合、それが住宅等の要求電力に満たない場合であっても、新型 iX3 から住宅等への給電は行われませんのでご注意ください。

*4: *2 に記載の‘利用制限状態’の場合、“双方向充電モード”を維持していると、V2H 機器での車両への充電はできません。車両のディスプレイ上で“即充電モード”に切り替えを行うことで、V2H 機器から車両への充電を行うことが可能ですが、2026 年 7 月現在使用可能な V2H 機器メーカーでは、住宅等の使用電力に合わせて車両への充電電力を制御する機能をご利用いただくことができないため、住宅等での使用電力が多い場合、保護機能が作動し、ブレーカーにより電源が遮断される可能性があります。なお、“即充電モード”の場合、255 分経過すると充電セッションは終了します。また、*2 に記載の‘利用制限状態’の場合、太陽光発電の余剰電力による車両への充電モードについては非対応となります。

*5: 高出力の急速充電の利用回数や利用時間が非常に多い場合、100%に近い SoC (ステート・オブ・チャージ、車両で表示される充電率)を長期間保持する場合、バッテリーを高温なまま長期間保持する場合など高電圧バッテリーの耐久性に悪影響を与える使用を制限するため、上記の使用状況を総合的に判断

し、一定の基準を超過した場合、V2H の日常的な使用を制限し、上記の‘利用制限状態’に変更する、また急速充電の最大出力を制限する場合があります。なお、電気自動車のバッテリーは一般的に 100%に近い SoC を長期間保持すると耐久性に悪影響があります。通常時、上限を 80%程度に保つことで、この影響を避けることが可能です。そのため**”双方向充電モード”を選択している場合、SoC が 80%程度に到達した場合は充電は終了されます。また、SoC が 80%を超える場合、充電が開始されません。**

*6: SoC (ステート・オブ・チャージ、車両で表示される充電率)が 10%以下の場合、V2H/V2L の給電機能はご利用いただくことができません。なお、V2H/V2L の給電機能を開始または継続することが可能な SoC は車両側で 10%-50%の間で設定が可能です。この閾値に到達したために給電セッションが終了した場合、自動でセッションは再開されません。この状態を避けるためには、V2H 機器側の最低放電充電率(SOC)を車両の最低放電充電率(SOC)より高く設定してください。

*7: V2H/V2L 機能の利用にあたっては、車両側での電力消費や V2H/V2L 機器側での電力消費があります。とくに要求電力が低い場合、効率が大きく下がる場合があります。

*8: **V2H 機器から車両への充電量や、車両から V2H/V2L 機器への給電量が少ない状態で一定時間が経過すると非効率な充電または給電を防止するために、充電または給電を停止する場合があります。**再起動するためには、V2H/V2L 機器側での操作が必要です。なお再起動した場合でも、充電量または給電量が少ない場合、再度停止します。

*9: 新型 iX3 の V2H 機能は、太陽光の余剰電力で車両の充電を行う場合に、V2H 機器の設定によっては、低い電力が継続する場合でも、車両への充電を継続する場合があります。そのため、充電が一定時間継続しても充電率が向上しない場合や、車両の消費電力が受け取る電力を上回った場合、充電率が低下する場合があります。また、太陽光の余剰電力のみで車両を充電する場合、期待する充電量が得られないことがあります。加えて、住宅等の消費電力が小さい場合は、車両からの給電ではなく商用電源(電力系統)からの買電を行う場合があります。

*10: 新型 iX3 の V2H/V2L 機能は、V2H 機器の設定によっては、住宅等からの要求電力が低い場合でも、車両からの給電を継続します。この場合、給電をするために車両が消費する電力や V2H/V2L 機器が消費する電力が相対的に多く、給電の効率が低くなる場合があります。なお、V2L 機能は 48 時間継続して使用することはできません。

*11: 新型 iX3 との充電・給電の試験で問題が報告されていない V2H/V2L 機器は下記のとおりです。ただし、試験結果は、車両と各機器の接続性を確認したもので、どのような状況においても V2H/V2L 機器が正常に機能することを保証するものではありません。機器の選定、設置の際は V2H/V2L 機器メーカーや設置業者ともご相談ください。

<接続性確認済 V2H 機器>

- ニチコン EV パワー・ステーション: VSG-3 シリーズ

*パワーコンディショナーの組み合わせについては*3 に記載のとりの制約がございます。

<接続性確認済 V2L 機器>

- ニチコン パワームーバー: VPS-4C1A
- ホンダ Power Exporter 9000

*12: V2H/V2L 機器の操作は、植込み型心臓ペースメーカー等の医療用電子機器を装着されている方は、医療用電子機器に影響を与える可能性があります。医療用電子機器メーカー・医師等に事前にご相談ください。

*13: V2H 機器を使用して車両を充電する場合、電気契約の見直しが必要となることがあります。機器の設置業者および電力会社にご相談ください。契約電力が V2H 機器の最大消費電力を下回る場合、保護機能が作動し、ブレーカーにより電源が遮断される可能性があります。

*14: 上記の注記内容は 2026 年 7 月 1 日現在のものです。なお、2026 年末から 2027 年にかけて、対応機器や*2 に記載の使用回数上限を緩和するアップデートが計画されています。変更点の詳細は別途、ウェブサイトなどに表示させていただく予定です。なお、アップデートが必ず実施されることを保証するものではありません。